

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	市制施行50周年記念式典事業					事務事業コード	01803
部 名	総務部	課 名	人権庶務課	係 名	人権庶務係	部課コード	020300

1. 事業概要

総合計画コード	6551				
事業年度	H 28 年度 ~ H 29 年度		事業類型	●ソフト事業 ○ハード事業	
法令等の義務付け	☐ 法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ☐ 義務と任意の両方を含んでいる事業 ☒ 任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務			<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 町を市とする処分 朝霞市表彰規定	
めざす目的成果	市制施行50周年を迎えるにあたり、記念式典を挙行し、市政発展にご尽力いただいた方々に対して感謝の意を表すとともに、郷土愛の醸成を図り、市政についての関心や理解をさらに深める。				
事業内容	平成29年度に「市制施行50周年記念式典」を開催する。平成28年度はその実施のための準備作業を実施する。 開催日時／平成29年5月28日(日) 午前10時～正午 会場・参加予定人数／ゆめばれす(朝霞市民会館)大ホール 1,000人程度 概要／表彰状及び感謝状の贈呈、アトラクション				
事業手法	☒ 市の完全な直営 ☐ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 ①記念式典挙行に係る準備作業(市直営)				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容		記念式典挙行に係る準備作業(実施施設確保、日程調整、案内状や記念冊子等の作成準備、表彰者等記念品の選定、表彰審査会主管課との連絡調整など)を実施した。									
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]				0		0		4,357		
	財源内訳	[イ]国庫支出金									
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他									
		[ホ]一般財源							4,357		
	b 人件費				0		0		5,130		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)					0		0		9,487		
投入労働量		常勤職員等(人工)				人		人		0.70 人	
		一般職非常勤職員等(時間)				時間		時間		時間	
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳			報酬 委員報酬 40千円 報償費 記念品代 2,000千円 需用費 消耗品費 1,192千円 印刷製本費 694千円 役務費 郵便料 131千円 筆耕料 300千円								
指標名			単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画	
				(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度	
活 動	①	記念式典の開催	—	準備 実施		—		—		実施(H29終了)	
	②			(準備) (—)		(—)		(—)		H 29 年度	
成 果	①	記念式典の参加者数	人	— 1,000		—		—		1,000(H29終了)	
	②			(—) (—)		(—)		(—)		H 29 年度	
				() (—)		(—)		(—)		H 年度	

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☒ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☒ その他 <説明> 市政は市役所が中心ではなく、市民が主役であると考え、市政発展にご尽力いただいた方々に感謝の意を表す機会を創出することは今後も必要であると考え。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☒ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 50周年という節目であることから、次の朝霞市を担う児童生徒や若い世代の方々に参画をいただくため、アトラクションとして参加いただける機会を創出した。また、表彰者記念品選定において都市間交流が図られるよう配慮し、また、市のシティセールスの推進について配慮した。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 市政功労者に対し、心からの感謝の意を表す式典の内容を計画した。 参加と協働: 朝霞十小及び朝霞一中の児童生徒や、合唱、鳴子などの市民団体との協働を計画した。 経営的な視点: 表彰者記念品選定において都市間交流が図られるよう配慮し、また、市のシティセールスの推進について配慮した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☒ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☒ その他 <説明> 従前は総務部として実施していたが、50周年という節目でもあり、庁内での協力体制を仰ぎながら実施することとする。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)				
今後の取組方針	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小			
	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
	見直しの方向性	☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続			
		☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度)			
		☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度)			
☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度)					
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)	☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度)				
	☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度)				
	☒ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 29 年度)				
	☒ その他 (実施時期: H 29 年度)				
50周年記念式典はもとより、次の60周年、70周年を計画する際には、市民等の力をお借りしながら、市全体として運営する式典になるよう努める。					